

WebOTX WORKS

プロモーション活動レポート
2008 年版



2009/2/17

NEC

<http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/>

目 次

● 2008 年加盟パートナー様一覧	3
● 2008 年発行WORKSコミュニティニュース	4
● 2008 年各種トピック	5
● 2008 年掲載特集ページ	6
● 2008 年開催イベント・セミナー報告	20

● 2008 年加盟パートナー様一覧

情報掲載日	会社名(敬称略)
2008/03/03	サイオン・テクノロジックス株式会社
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_psion.html	
2008/03/25	オムロン株式会社
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_omron.html	
2008/03/25	株式会社ウェルキャット
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_welcat.html	
2008/03/25	アドビシステムズ株式会社
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_adobe.html	
2008/03/26	東京エレクトロンデバイス株式会社
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_teldevice.html	
2008/04/20	Imperva Japan 株式会社
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_imperva.html	
2008/06/06	株式会社エフ・イー・シー
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_fec.html	
2008/06/11	株式会社 ITAGE
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_itage.html	
2008/06/18	住友電工情報システム株式会社(QuickSolution)
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_sei-info_qs.html	
2008/07/01	株式会社セゾン情報システムズ
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_saison.html	
2008/09/16	エスエムジー株式会社
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_smg.html	
2008/11/21	株式会社システムサイエンス研究所
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partners_sylc.html	

● 2008 年発行WORKSコミュニティニュース

号数	配信日	タイトル
022	2008/01/30	WebOTX 技術情報
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push021-025.html#022		
023	2008/02/29	サービスコンポーネント情報満載
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push021-025.html#023		
024	2008/03/26	WebOTX V7 技術情報
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push021-025.html#024		
025	2008/04/23	NGN 次代の重要プロトコル SIP って?
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push021-025.html#025		
026	2008/05/28	ITPro サイトに WebOTX 導入事例集を紹介
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push026-030.html#026		
027	2008/06/20	WebOTX 最新リリース情報
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push026-030.html#027		
028	2008/06/25	Java EE 5 対応 V8 発表
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push026-030.html#028		
029	2008/07/25	WebOTX V8.1 新機能を解説
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push026-030.html#029		
030	2008/08/29	WebOTX WORKS DAY 2008 開催
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push026-030.html#030		
031	2008/09/26	WebOTX WORKS DAY 2008 開催間近
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push031-035.html#031		
032	2008/10/28	WebOTX WORKS DAY 2008 ご報告
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push031-035.html#032		
033	2008/11/28	大盛況!!ユーザフォーラム&iEXPO2008 レポート
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push031-035.html#033		
034	2008/12/25	鏡よ鏡…。鏡×RFID＝魔法の鏡!?
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/push031-035.html#034		

● 2008 年各種トピック

情報掲載日	タイトル
2008/04/01	RFID Manager WORKS を WebOTX WORKS に統合 http://www.nec.co.jp/rfid/rfidmanager/works/index.html
2008/04/23	「トピック」 ページを掲載。各月の動きを紹介開始。 http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/topic.html
2008/11/28	「F5 VALUE 2008」にて、NECが「ADN Partner Award」を受賞。 
	http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/topic0811.html#F5award2008
2008/12/08	「特集」「活動」 ページを掲載。 http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/article.html http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/activity.html

● 2008 年掲載特集ページ

情報掲載日	タイトル
2008/05/13	<u>F5 ネットワークスジャパン様によるインタビュー情報公開(*)</u> 「WebOTXの信頼性・可用性をさらに強化」
http://www.f5networks.co.jp/solution/topics/webotx.html	
2008/07/15	<u>WebOTX WORKS Partner Voices 第1弾</u> 「漏れのない検索を実現する方法をご存じですか？住友電気情報システム「QuickSolution」の底力」
http://www.atmarkit.co.jp/ad/nec/0807webotx/quicksolution.html	
2008/09/17	<u>WebOTX WORKS Partner Voices 第2弾</u> 「AIRにFlash、PDF——アドビの技術の集大成「LiveCycle ES」であなたのビジネスは回り続ける」
http://www.atmarkit.co.jp/ad/nec/0809webotx/livecycle.html	
2008/09/17	<u>WebOTX WORKS DAY事前特集(*)</u> 「栗原潔氏インタビュー ～求められているのはビジネスの変化に柔軟かつ俊敏に対応できる基幹系システム～」
http://www.sbbt.jp/article/9510/	
2008/12/08	<u>WebOTX WORKS Partner Voices 第3弾</u> 「既存システムとの連携に不可欠なピース“データ連携のすべて”を支える「HULFT」の進化」
http://www.atmarkit.co.jp/ad/nec/0812webotx/hulft.html	

(次ページ以降に特集内容を掲載しています。ただし(*)は本ページに示した URL のみです)



[@IT総合トップ](#) > [テクノロジー](#) > @IT Special PR:漏れのない検索を実現する方法をご存じですか？住友電工情報システム「QuickSolution」の底力

本記事は、@IT (<http://www.atmarkit.co.jp/>) へ2008年 7月
に掲載されたものです。



WebOTX WORKS Partner Voices:

漏れのない検索を実現する方法をご存じですか？
住友電工情報システム「QuickSolution」の底力

サービスは基盤の上に成り立ち、基盤はサービスを安定して稼働させるために存在する。WebOTX WORKS Partner Voicesでは、企業システムのインフラを支えるNECのサービス実行基盤「WebOTX」が、パートナーの提供するソリューションにどのように貢献しているのかパートナーへのインタビューを通して紹介する。今回は住友電工情報システムの全文検索エンジン「QuickSolution」とWebOTXの深い関わりを掘り下げよう。

エンタープライズサーチとインターネット検索の違いとは

PCは1人1台が当たり前のいま、企業のノウハウはなんらかの電子情報になっているだろう。企業内の情報を共有することで企業は成長するが、欲しい情報を簡単に探すことは想像以上に難しく、となりの部署にあるノウハウを探すことさえできない場合もある。

「エンタープライズサーチ」はそのようなニーズから登場した考え方だ。企業内に存在するありとあらゆる情報を対象としたエンタープライズサーチは、一見インターネット検索と同じ手法を適用すればよいと考えがちだが、実際には企業であるがゆえのニーズがある。

一般的なインターネット検索では動的／静的なHTMLコンテンツやPDF、そしてOffice文書などが対象となるが、エンタープライズサーチではさらにデータベース内の情報やXML文書なども検索対象にする必要がある。そして表記の揺れや、企業に特有の専門用語も考慮しなくてはならない。

企業のノウハウをいかに簡単に、的確に探し出せるかは企業の生命線ともいべき重要なポイントだ。住友電工情報システムが提供する全文検索エンジン「[QuickSolution](#)」は、企業が蓄積したノウハウを「漏れなく」探すためのソリューションである。

「知の発掘」ができるツールを



● WebOTX WORKS Partner Voices:



第1回:
漏れのない検索を実現する方法とは
住友電工情報システム
「QuickSolution」



第2回:
AIRにFlash、PDF。アドビ技術の集大成
アドビシステムズ
「LiveCycle ES」



第3回:
既存システムとの連携に不可欠なピース
セゾン情報システムズ
「HULFT」

関連リンク

- ▶ [住友電工情報システム 全文検索エンジン QuickSolution\(クイックソリューション\)](#)
- ▶ [NECのサービス実行基盤 WebOTX](#)
- ▶ [WebOTXパートナープログラム WebOTX WORKS](#)
- ▶ [NECのサービス実行基盤 WebOTX 事例ご紹介](#)
- ▶ [プレスリリース: サービス実行基盤「WebOTX」最新版の発売](#)

関連記事

- ▶ [NEC、サービス実行基盤と情報管理の2製品を発表 \(@IT News\)](#)
- ▶ [NEC、JBI対応のAPサーバ／ESBを販売開始 \(@IT NewsFlash\)](#)
- ▶ [多様なユビキタス・デバイスに対応する サービス実行基盤「WebOTX」\(@IT Special\)](#)

セミナー開催情報



エンタープライズサーチの導入に成功した企業は、それをどのように活用しているのでしょうか？ エンタープライズサーチの最新動向と有効的な活用事例、構築事例をご紹介します。企業内検索エンジン「QuickSolution」と、企業インフラエンジン「WebOTX」のコラボレーションで実現するエンタープライズサーチシステムの構築について、ご興味のある方はぜひセミナーにご参加ください。

日時	2008年7月28日(月) 13:30～17:00 (13:00～受付開始)
----	---

住友電工情報システムQuickSolution
開発課の岸田正博氏は、エンタープライズサーチを「知の発掘」と表現する。その意味は何であろうか。

一般的なインターネット検索で行っていることは「分かっているものを探す」行為だという。インターネットに存在するさまざまなWebページには、自分が必要としている情報がどこかに存在しているであろう、という前提があるが、エンタープライズサーチでは「分かっているものを探す」、つまりいままで遭遇していない文書や、さらには存在を予見していない文書までも、いかに検索するかがポイントとなる。

このためには「ナレッジマネジメント」「ナレッジ・マネジメント」「ナレッジ・マネージメント」というような表記揺れ、スペルミス、短縮表現を吸収するための類似検索アルゴリズムもさることながら、「いかにして漏れのない検索を実現するか」が重要だと岸田氏は述べる。

このような検索においては、検索対象の文章からワードを切り出す手法が使われる。日本語ではワードとワードの間にスペースがないことから、機械的に複数文字の文字列として分解する「N-gram方式」、また言語に特化したシステム辞書を用意し、その辞書とワードが一致する部分で切り出すような「形態素解析方式」などが利用されることが多い。

しかし、N-gram方式であると辞書は不要であるという利点はあるが「京都」を検索しようすると「東京都」もヒットしてしまうという問題があるし、形態素解析方式であると検索精度は高いものの、常に辞書のメンテナンスが必要となる。

そこでQuickSolutionではそれらの方式の利点のみを組み合わせ、新たに作られた「QSハイブリッド方式」を採用している。この特徴を表でまとめてみよう。

	N-gram方式	形態素解析方式	QSハイブリッド方式
システム辞書	不要	必要	必要(必須ではない)
インデックス形式	N-gram転置ファイル :フルテキストインデックス	単語転置ファイル: 単語インデックス	N-gram転置ファイル+単語転置ファイル
長所	●任意の文字列を検索可能 ●検索漏れがない	●検索結果にノイズが入りにくい	●任意の文字列を検索可能 ●検索漏れがない ●検索結果の上位にノイズが入りにくい
短所	●検索結果にノイズが入りやすい →「京都」で検索して東京都がヒットする →「スキー」で検索して「ウイスキー」がヒットする	●検索漏れが生じる →リカバーできず致命的 ●新語/造語が検索できない →辞書のメンテナンスが必要 →インデックス再生成が必要 ●型番の部分一致に弱い →「イントラ」で検索して「イントラネット」がヒットしない	●インデックスサイズが大きい →インデックス更新時間は従来と同程度 ●検索漏れはN-gramベースの方式でカバーできるため、辞書のメンテナンスおよびインデックスの再生成は必須ではない

表 N-gram、形態素解析、QSハイブリッド方式の比較



住友電工情報システム
ビジネスソリューション開発部
QuickSolution開発課
岸田 正博氏

会場	NECブロードバンドソリューションセンター(品川イーストワンタワー7F) ⇒会場地図はこちら
----	---

詳細は「[企業内の情報を巧く活用できる秘訣教えます!](#)」セミナー詳細ページをご覧ください。



この方式を採用することにより、インデックスサイズが若干大きくなるとはいえ、エンタープライズサーチでは最も重要な「漏れがない検索」を実現することができる。さらに検索エンジン、検索画面ともに多言語対応しており、日本語、英語、中国語、韓国語も検索することが可能だ。

また指定した検索ワードが文書の先頭に集中する文書ほど、望まれている文書である可能性が高いとするなどのアルゴリズムを基にスコア付けを行う「位置考慮検索」を組み合わせることで、もれなく探し出した文書のうち、最も有効な文書を見つけることが可能だ。QuickSolutionは企業に眠る情報の原石のなかから、“今最も欲しいもの”を的確に発掘できるツールなのだ。

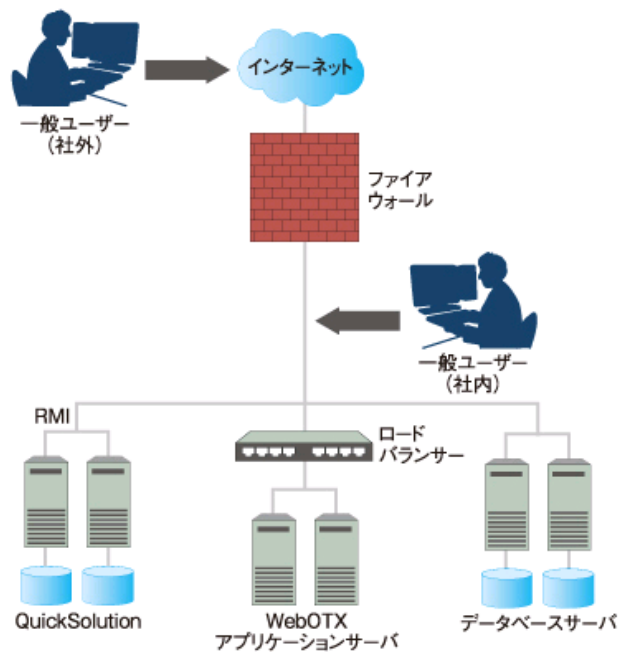
The screenshot shows the QuickSolution Portal interface. At the top, there's a header with the logo and navigation links. Below that, there's a search bar and several filters. The main content area displays a list of search results, each with a score, date, and title. The bottom section shows a detailed view of a specific document, including its content and a list of related documents.

QuickSolutionの検索画面の例（クリックで拡大表示）

基盤は専門家に——トラブルフリーで導入ができた理由

このように、QuickSolutionは情報をもれなく探すための機能を提供している。しかし、システムとして検索サービスを提供するためには、システムのインフラ部分も重要だ。

その点でQuickSolutionを支えているのが、NECの提供するJavaベースのサービス実行基盤「WebOTX」である。QuickSolutionはWebOTX Application Server上に構築されており、QuickSolutionにとって「縁の下の力持ち」的な存在だ。



QuickSolutionのシステム構成例

岸田氏は「あくまで私たちは検索エンジンの機能を向上させることに注力し、基盤となる部分は『もちもち屋』で専門家をお願いすべきだと考えている」と述べる。その「WebOTX」のサポートに対する評価だが、「お客様のシステム構築時に、私たち経由で問い合わせをするケースもありましたが、即日回答だったと思います」（岸田氏）と現場レベルでの評価も上々のようだ。また社内のサービスでも簡単には止めることができないものが増えるなか、クラスタリングやフェイルオーバーの仕組みを実装することも不可欠である。そのようなエンタープライズクラスの可用性、信頼性を実現するシステム構成に関する情報も豊富に揃っており、「WebOTX上で安心して構築することができた」（岸田氏）という。

Javaのアプリケーションサーバといえば、真っ先にTomcatが思い浮かぶだろう。QuickSolutionはあくまで検索エンジンであるため、Tomcatをアプリケーションサーバとしてバンドルし提供することもあるが、「実行基盤にWebOTXを利用した案件は安定している。問い合わせやトラブルの数も少なく、QuickSolutionと親和性が高い」という声も上がっており、導入した企業からも評判が高い。

NECは2008年7月に基幹業務システム向けのJava最新仕様「Java EE 5」へ準拠した「**WebOTX V8**」をリリースした。NGNミドルウェア共通APIの基本仕様の採用など、時代を先取りし、揺るぐことのない実行基盤があるからこそ、上に乗るアプリケーションが安心して作れ、安心して使えるのだ。

今後、NECと住友電気情報システムはエンタープライズサーチの領域でプロモーション協業を展開していくという。[セミナーの開催も予定](#)されており、そこではQuickSolutionの具体的な事例、そしてWebOTXの最新情報も紹介される。探すべき情報が社内にあふれているすべての企業にとって注目のセミナーとなりそうだ。

セミナー開催情報



エンタープライズサーチの導入に成功した企業は、それをどのように活用しているのでしょうか？ エンタープライズサーチの最新動向と有効的な活用事例、構築事例をご紹介します。企業内検索エンジン「QuickSolution」と、企業インフラエンジン「WebOTX」のコラボレーションで実現するエンタープライズサーチシステムの構築について、ご興味のあ

る方はぜひセミナーにご参加ください。

日時	2008年7月28日(月) 13:30～17:00 (13:00～受付開始)
会場	NECブロードバンドソリューションセンター(品川 イーストワンタワー7F) ⇒ 会場地図はこちら

詳細は「[企業内の情報を巧く活用できる秘訣教えます!](#)」
セミナー詳細ページをご覧ください。



提供: 日本電気株式会社
企画: アイティメディア 営業本部
制作: @IT 編集部
掲載内容有効期限: 2008年7月28日



atmarkIT

[@ITトップ](#) | [@IT Special インデックス](#) | [会議室](#) | [利用規約](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#)

Copyright(c) 2000-2009 ITmedia Inc.

著作権はアイティメディア株式会社またはその記事の筆者に属します。(著作権について)

当サイトに掲載されている記事や画像などの無断転載を禁止します。

「@IT」「@IT自分戦略研究所」「@IT情報マネジメント」「JOB@IT」「@ITハイブックス」「@IT MONOist」「ITmedia」「誠」「BARKS」は、アイティメディア株式会社の登録商標です。

当サイトに関するお問い合わせは「[@ITへのお問い合わせ](#)」をご覧ください。



@IT総合トップ > テクノロジー > @IT Special PR: AIRにFlash、PDF——アドビの技術の集大成「LiveCycle ES」であなたのビジネスは回り続ける

本記事は、@IT (<http://www.atmarkit.co.jp/>) へ2008年 9月に掲載されたものです。



WebOTX WORKS Partner Voices 第2回: AIRにFlash、PDF——アドビの技術の集大成 「LiveCycle ES」であなたのビジネスは回り続ける

NECのWebOTXと連携するパートナーの製品やソリューションをサービス基盤の視点から紹介するWebOTX WORKS Partner Voices、第2回はアドビシステムズが提供する、ビジネスコミュニケーションを円滑に回すためのプラットフォーム「LiveCycle™ Enterprise Suite」に注目します。

表現力をビジネスの現場に

テキストと画像だけで構成されていたWebサイト、それはもう前世代のものだ。いまやFlashによるアニメーションや動画で彩られ、ユーザーインターフェイスもより直感的なものが実現できている。Webからダウンロードできるドキュメントではセキュリティの確保が重要であり、PDFが利用されることも多い。PDFやFlashに関してはWebブラウザがインストールされている環境であれば、ほぼ100%プラグインがインストールされており、誰もが利用可能なデファクトスタンダードな表現方法の1つといっていよう。

表現力あふれるFlash、そしてプラットフォームに依存しないドキュメント環境であるPDFをビジネスで利用しない手はない。そのニーズを一手に受けるエンタープライズ向けプラットフォームこそアドビシステムズの「LiveCycle™ Enterprise Suite (ES)」だ。

LiveCycle ESのパワーに触れる

アドビシステムズ マーケティング部の小島英揮氏は、LiveCycle ESを「使う人が使いやすくなるよう、ビジネススタイルに合った表現をするためのツール」だと語る。

LiveCycle ESは、Java 基盤上で、RIAやドキュメントサービスを実現するためのソリューションコンポーネント群の総称である。LiveCycle ESを使うと、HTMLを使った従来の“テキストや画像だけ”の世界で提供されていた情報を、FlashやPDFを使ってリッチに表現できる。「表現力」とはアプリケーションからアプリケーションへとデータを渡すときには不要かもしれないが、人が介入する処理には必須なものであり、その点が十分に考えられているのが特長だ。

百聞は一見にしかず、ぜひデモアプリケーション「LiveCycle on



ADOBE® LIVECYCLE® ES



● WebOTX WORKS Partner Voices:



第1回:
漏れのない検索を実現する方法とは
住友電工情報システム
「QuickSolution」



第2回:
AIRにFlash、PDF。アドビ技術の集大成
アドビシステムズ
「LiveCycle ES」



第3回:
既存システムとの連携に不可欠なピース
セゾン情報システムズ
「HULFT」

関連リンク

- ▶ [Adobe LiveCycle Enterprise Suite](#)
- ▶ [Adobe AIRギャラリー](#)
- ▶ [NECのサービス実行基盤 WebOTX](#)
- ▶ [WebOTX/パートナープログラム WebOTX WORKS](#)
- ▶ [NECのサービス実行基盤 WebOTX 事例ご紹介](#)
- ▶ [プレスリリース: サービス実行基盤「WebOTX」最新版の発売](#)

関連記事

- ▶ [JavaとFlex/AIRをつなぐ「炎」のオープンソース \(@IT リッチクライアント & 帳票\)](#)
- ▶ [オブジェクトで通信するAMFとS2JDBCによるDB接続 \(@IT リッチクライアント & 帳票\)](#)
- ▶ [アドビ、「BlazeDS」はAjax+JSONの4倍速い \(@IT NewsInsight\)](#)

セミナー開催情報



WebOTX WORKS DAY 2008

AIR」に触れてほしい。このデモでは話題のデスクトップリアルタイム、Adobe AIRを活用し、「PDFの作成 マーケティング部 ビジネスソリューション／と保護」「ガイド付き帳票作成ツール エンタープライズ &」「ダッシュボードとレポート作成」 デベロッパーマーケティング部 小島 英輝氏 などのデモンストレーションを通して、短時間でLiveCycle ESの特長をつかむことができる。それらを簡単に紹介しよう。

■LiveCycle on AIRは、LiveCycle ESのWebサイトよりダウンロード可能です
⇒<http://www.adobe.com/jp/livecycle/>

●配布後の情報コントロールを実現

デモ「PDFの作成と保護」では、LiveCycleのDRMテクノロジーを使った動的なアクセスコントロールを体験することができる。任意のファイルをAIRの機能でLiveCycleにアップロードするだけで、PDF変換→DRM適用のプロセスがLiveCycle上で実行され、「1日だけ閲覧可能」なPDFや、利用状況を監視可能な「オンライン環境だけで利用可能」なPDFが作成できる。情報の利用者、利用期間、利用範囲は管理者が自由に変更できるので、情報のライフサイクルや、契約関係の変化に応じて、情報流通を自在にコントロールできるのだ。



PDFの作成と保護

●RIAとPDFの連携で利用者の負担を軽減

デモ「ガイド付き帳票作成ツール」では、複雑な帳票入力をRIAがアシストする「フォームガイド」という機能を体験できる。フォームガイドの機能を分かりやすく説明すると、イメージ的には皆さんもよくご存じの「年末調整」のような複雑な申請書を、ウィザード形式の入力フォームに、名前、住所などの質問項目に答えていくと、自動的にPDFベースで帳票ができあがるというものである。ここで注目したいのは、PDFが単にウィザードで入力された情報を反映するだけでなく、PDF上での修正、変更が可能な点だ。こうしたラウンドトリップな(双方の環境を行き来できる)入力環境をサポートすることで、利用者の負担は格段に少なくなるのだ。



ガイド付き帳票作成ツール

●データの可視化も自在に

デモ「ダッシュボードとレポート作成」では、Webページのデータベースに格納されたデータを基に、動的に折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフなどをグラフィカルに表示する。そのグラフにマウスカーソルを合わせると詳細なデータが表示され、クリックするとドリルダウンするといったように、直感的な動作を作ることAIRならばお手の物だ。これはFlashの表現力とバックエンドのデータベースがLiveCycleで密に結合されている結果である。



ダッシュボードとレポート作成

このように、LiveCycle ESでは柔軟性の高いセキュリティ、ビジネスドキュメントのワークフロー、そして優れた表現力を現実のビジネスに適用することができる。そして利用者に必要なものはAdobe ReaderやFlashのプラグイン

～ビジネスの成長に必須な基幹系システムの
未来予想図 今とるべき対策とは？～

2008年10月3日に開催する「WebOTX WORKS DAY 2008」では、「ビジネスの成長に必須な基幹系システムの未来予想図今とるべき対策とは？」をテーマに、基調講演にテックバイザージェイピー代表、栗原潔氏をお招きし、「成長ビジネスのための次世代基幹系システムの提言」と題した講演を行います。

さらにNEC講演、WebOTX WORKSパートナーの講演と続き、将来あるべき基幹系システムとその実現のためのソリューションを紹介します。受講料は無料となりますので、ぜひご来場ください。

日時	2008年10月3日(金) 13:30～17:00 (13:00～受付開始)
会場	東京 浜松町 世界貿易センタービル 38F フォンテヌ ⇒会場地図はこちら JR・東京モノレール「浜松町駅」と直結 浅草線・大江戸線「大門駅」と直結 東京都港区浜松町二丁目4番1号

▶▶ 参加登録

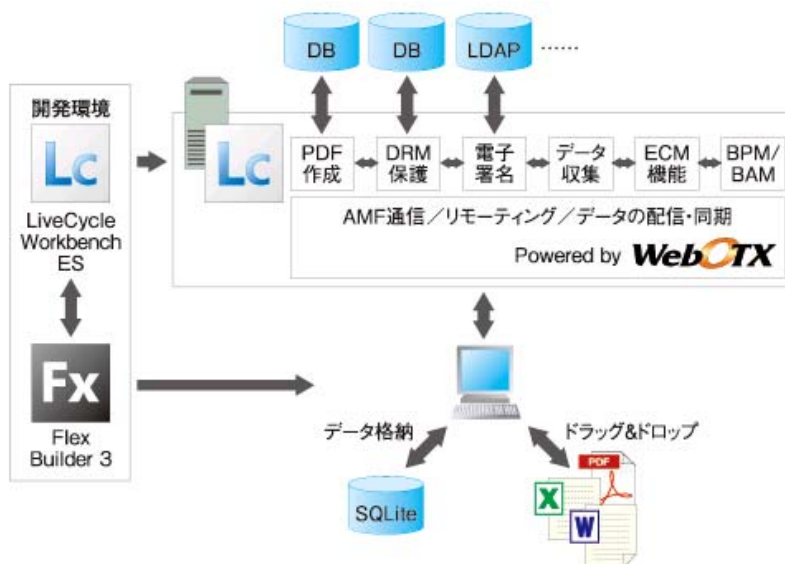
ンだけであり、クライアントに専用のアプリケーションを配布しなくてもよい点にも注目したい。

時々刻々と変化するデータ、それをFlashやPDFを活用し、“魅せる”仕組み。この2つをスムーズにつなぐためのビジネス基盤がLiveCycle ESなのだ。

LiveCycle ESの要、データサービスを支えるNECの技術

LiveCycleが提供するこれらのサービスを利用する上で欠かせないのが、LiveCycleのコンポーネントの1つとして提供されているアドビシステムズのSOAプラットフォーム、「**LiveCycle Data Services ES**」(以下LC DS)だ。

例えば先のデモで、PDFを作成するボタンをクリックする、グラフをクリックしてドリルダウンするなどのアクションにはそれぞれ LiveCycle ESとのインタラクションが発生する。これらのアクションはLC DSを経由して高速に実行され、必要な場合はプッシュのテクノロジーを使った情報の一斉配信や、クライアントとサーバ間のデータの同期が行われる。このLC DSのAMF(Action Message Format)通信やリモーティング、メッセージングなどの「データサービス」機能が安心、確実に動作するための基盤としてNECのサービス実行基盤 WebOTXが使われている。



AMF通信やリモーティング、データ配信や同期を行うのがデータサービス。
WebOTXの高信頼技術で大規模システムへの導入も安心だ。

LiveCycleを使ったソリューションでは、LiveCycleが提供するサービスを、いかにクライアントから高速に使えるかが要となる。このサーバ連携がスムーズかつ安心して行えなくては情報も回らない。「もちろん、この部分には可用性、信頼性のあるコンポーネントを使う必要がある」と小島氏は語る。WebOTXがLiveCycle ESの最も重要な部分に採用されているということだ。

実際、大規模なRIA導入を検討されている顧客においては、機能の高さだけでなく、可用性、信頼性も導入決定の大きなポイントとなる。このようなシーンにおいて、多くの顧客がWebOTXを選定している。さらにWebOTXがもつNGNへの対応なども、今後ますますRIAが広がっていく上で、重要な要素になるのは間違いない。

ビジネスのプロセスを、アドビシステムズとNECの技術で回す。見せる技術と回す技術が融合したLiveCycle ESで、ビジネスコミュニケーションの“サイクル”が加速するのだ。2008年10月に開催されるWebOTX WORKS DAY 2008のアドビシステムズの講演パートは、ライブデモを交えながらの講演になるとのこと。「ビジネスサイクルの加速」をリアルに感じることができそう

だ。LiveCycle ES、そしてWebOTXをより深く知りたいすべてのエンジニアは、このイベントに注目すべきだろう。

セミナー開催情報



WebOTX WORKS DAY 2008

～ビジネスの成長に必須な基幹系システムの未来予想図 今とるべき対策とは?～

2008年10月3日に開催する「WebOTX WORKS DAY 2008」では、「ビジネスの成長に必須な基幹系システムの未来予想図今とるべき対策とは?」をテーマに、基調講演にテックバイザージェイピー代表、栗原潔氏をお招きし、「成長ビジネスのための次世代基幹系システムの提言」と題した講演を行います。

さらにNEC講演、WebOTX WORKSパートナーの講演と続き、将来あるべき基幹系システムとその実現のためのソリューションを紹介します。受講料は無料となりますので、ぜひご来場ください。

日時	2008年10月3日(金) 13:30～17:00 (13:00～受付開始)
会場	東京 浜松町 世界貿易センタービル 38F フォンテース ⇒会場地図はこちら JR・東京モノレール「浜松町駅」と直結 浅草線・大江戸線「大門駅」と直結 東京都港区浜松町二丁目4番1号



提供: 日本電気株式会社
企画: アイティメディア 営業本部
制作: @IT 編集部
掲載内容有効期限: 2008年9月30日



a t m a r k i t

[@ITトップ](#) | [@IT Special](#) [インデックス](#) | [会議室](#) | [利用規約](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#)

Copyright(c) 2000-2009 ITmedia Inc.

著作権はアイティメディア株式会社またはその記事の筆者に属します。(著作権について)

当サイトに掲載されている記事や画像などの無断転載を禁止します。

「@IT」「@IT自分戦略研究所」「@IT情報マネジメント」「JOB@IT」「@ITハイブックス」「@IT MONOist」「ITmedia」「誠」「BARKS」は、アイティメディア株式会社の登録商標です。

当サイトに関するお問い合わせは「[@ITへのお問い合わせ](#)」をご覧ください。



Google検索

[@IT総合トップ](#) > [テクノロジー](#) > @IT Special PR: 既存システムとの連携に不可欠なピース “データ連携のすべて”を支える「HULFT」の進化

本記事は、@IT (<http://www.atmarkit.co.jp/>) へ2008年12月に掲載されたものです。



WebOTX WORKS Partner Voices 第3回:

既存システムとの連携に不可欠なピース
“データ連携のすべて”を支える「HULFT」の進化

NECのWebOTXと連携するパートナーの製品やソリューションをサービス基盤の視点から紹介するWebOTX WORKS Partner Voices、第3回は企業間、企業内のデータ連携を支える、セゾン情報システムズの「HULFT」に注目しよう。

「システムとシステムをつなぐ」を一手に引き受ける
純国産ファイル転送パッケージ

仮想化、シンクライアント、Ajaxをフル活用したWebアプリケーション……いま技術者が注目している分野では、めざましく発展した技術を取り入れたシステムが花盛りである。このような最新技術ばかりに目が向きがちであるが、実際のシステム構築は「すべてイチから作る」ということはまれであり、既存のシステムとの連携が不可欠だ。そしてその既存のシステムとは、勘定系などで安定稼働を続けるメインフレームやオフコンである場合も多い。それらのシステムとの連携を取るために、システム構築では異機種間のバッチ／ファイル連携方式が重要な課題となる。

セゾン情報システムズが開発した純国産の企業内・企業間通信ミドルウェア「HULFT」はそのような“ファイル連携”を一手に引き受ける。HULFTはマルチプラットフォームでのシステム間連携を実現するために、1993年からインターネット標準プロトコルのTCP/IPに着目し、共通プロトコルとして採用。ファイル転送処理機能だけではなく、それに伴う「送達確認」「ジョブ連携」「暗号化」「履歴確認」などの機能を1つのパッケージにしたものだ。

HULFTは「バッチ処理の強い味方」

1990年前後、IT業界は「ダウンサイジング」という言葉を多用していた。PCやUNIXワークステーションの性能が実用レベルに達し、従来の汎用機ベースで行っていた処理を、より安く実現できるようになり、システム構築の考え方が急激に変化した時代であった。

しかし汎用機ベースで作られていた勘定系などのシステム自体がすぐに変化するのではなく、ほとんどのシステムは汎用機で作られた安定稼働中のシステムに加え、最新の技術と使いやすいオープンシステムを併用するかたちでの「ライトサイジング」なシステムを構築していた。さまざまなプラットフォームが混在するため、その間の接続、具体的にはファイル転送の仕組みが必要となる。



● WebOTX WORKS Partner Voices:



第1回:
漏れのない検索を実現する方法とは
住友電工情報システム
「QuickSolution」



第2回:
AIRIにFlash、PDF。アドビ技術の集大成
アドビシステムズ
「LiveCycle ES」



第3回:
既存システムとの連携に不可欠なピース
セゾン情報システムズ
「HULFT」

関連リンク

- ▶ ファイル転送 - HULFT - TCP/IP 企業内・企業間通信ミドルウェア
- ▶ セゾン情報システムズ
- ▶ NECのサービス実行基盤 WebOTX
- ▶ WebOTXパートナープログラム WebOTX WORKS
- ▶ NECのサービス実行基盤 WebOTX 事例ご紹介
- ▶ [セミナーレポート]
WebOTX WORKS DAY 2008
(2008年10月3日(金)開催)
- ▶ プレスリリース:
サービス実行基盤「WebOTX」最新版の発売

関連記事

- ▶ WebSAMとHULFTが連携強化、障害時の対処法を通知可能に
(@IT NewsInsight)

この部分を引き受けているのがセゾン情報システムズの「**HULFT**」である。ファイル転送だけでなく、それに関連する機能を一手に引き受けるこのパッケージの歴史は長い。

セゾン情報システムズ HULFT営業部 営業支援課 課長の玉田 徹氏は「バッチでのファイル連携については『ファイルさえ作っておけば、あとはHULFTがやってくれる』とお客様が考えてくれるようになった」と語る。企業間のネットワークでも双方のシステムにHULFTが導入されていることが多く、「では、企業間通信もHULFTでやりましょう」ということも珍しくないという。



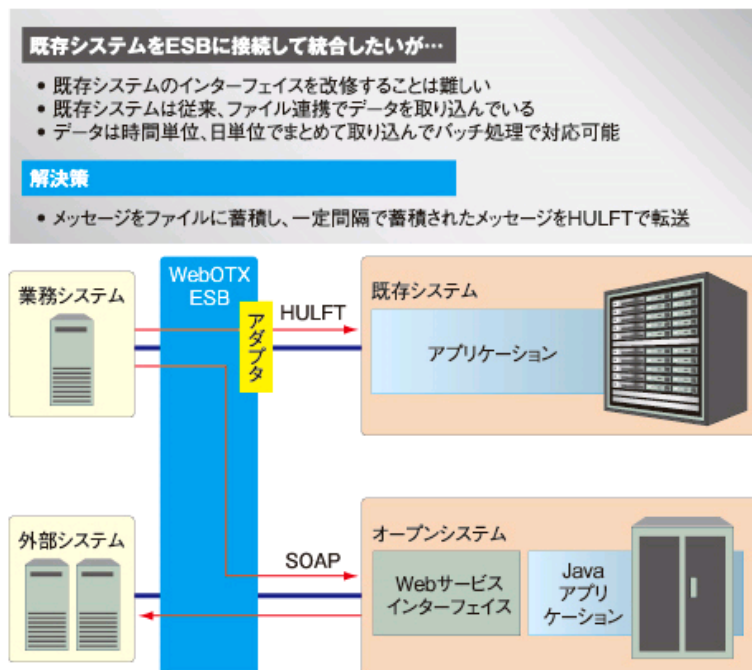
セゾン情報システムズ 営業本部
HULFT営業部 営業支援課 課長
玉田 徹氏

「ファイル転送ならHULFT」——しかし、システム連携の手法はファイル転送だけではない。確かに90年代はバッチ／ファイル連携が主流であった。それがエンタープライズアプリケーション統合(EAI)となり、XMLでシステム間の情報を共有するなどの流れも本格化してきている。この部分の対応に、セゾン情報システムズはパートナーとしてNECのサービス実行基盤「**WebOTX**」を選択した。

メッセージ連携とファイル連携は排他なものではない

情報システム部は大きなジレンマを抱えている。ユーザーとのインターフェイスとなる部分はWebアプリケーションでまとめたい、しかしバックエンドのシステムは安定稼働しているメインフレームベースのシステムに手を加えずに利用したいのが本音だ。「フロントエンドシステムの高機能化」と「バックエンドシステムの硬直化」が同時に進む状況で、双方の強みを生かして再構築するには、間を取り持つ連携システムが重要である。

このシステム間連携に、WebOTXはSOA基盤「**WebOTX Enterprise Service Bus(ESB)**」、セゾン情報システムズはJMS/Fileアダプタを提供している。JMSインターフェイスによって、ESBのメッセージキューとHULFTが連携し、双方のシステムが透過的に接続できるという仕組みだ。



WebOTX ESBとHULFTがシステムとシステムを結ぶ

このとき、ファイル連携とメッセージ連携の両方が利用可能であることに注目したい。例えばWebアプリケーションとして構築された業務システムから、既存の勘定系システムへと連携したい場合を考えよう。Webアプリケーションからはリアルタイムに処理が発生するが、既存システムがファイル転送によるバッチ処理インターフェイスしか持っていない場合もある。既存システムは安定稼働しているので、なるべく手を入れたくないというのが本音だろう。

そのデータ連携をESBが仲立ちする。ESBがメッセージをファイルに蓄積し、一定期間ごとにそれを既存システムに転送、バッチ処理を行うような仕組みが構築できる。この方法であれば、既存システムに手を加えることなく、フロントエンドは存分に最新のテクノロジーを使ったシステムを構築できるのだ。

ESBを活用して企業システムをSOAで構築することで、これまでの点と点を結ぶデータ連携が、線や面で連携可能となる点を見逃してはいけない。また、最新テクノロジーをシステム基盤に取り入れることは、Ajaxのようなフロントエンドでのメリットだけではなく、NGN、SaaSのような新しいビジネスモデルを企業に取り入れることも可能となる。その担い手となるのが、サービス実行基盤「WebOTX」だ。

「技術の人間がほれた」——NECとの取り組みを語る

NECのWebOTXについて、玉田氏は「WebOTXを技術部門が試用してみたが、性能面でも使い勝手の面でも優れており、相性はとてもいい」と語る。しかし同時に「ただ『技術の人間がすばらしい』という製品でも、それだけで『売れる』とは限らない」とも言う。

HULFTは歴史のある純国産のミドルウェアパッケージで、その分、日本のお客様の厳しいチェックがある。玉田氏は「性能がよい、機能があるだけではなく、お客様に評価されるためには『開発元とのコミュニケーションが円滑か』『なんらかの問題があったときに、サポートが受けられるか』『旧バージョンとの互換性はキープできるか』も重要」という。

その点もNECは——「まったく問題ない」。現に、セゾン情報システムズとNECは開発同士、マーケティング同士の交流も盛んであり、2社で実証実験

やシステムインテグレーションを行うなど、製品だけのつながりではないということだ。

2008年10月、セゾン情報システムズは顧客の要望を多数取り入れた「HULFT7」をリリースした。ファイル転送から“セキュアなデータ連携”へ——それをセゾン情報システムズとNEC、多くの技術者たちが支えている。

提供: 日本電気株式会社

企画: アイティメディア 営業本部

制作: @IT 編集部

掲載内容有効期限: 2008年12月21日



a t m a r k i t

[@ITトップ](#) | [@IT Special](#) [インデックス](#) | [会議室](#) | [利用規約](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#)

Copyright(c) 2000-2009 ITmedia Inc.

著作権はアイティメディア株式会社またはその記事の筆者に属します。(著作権について)

当サイトに掲載されている記事や画像などの無断転載を禁止します。

「@IT」「@IT自分戦略研究所」「@IT情報マネジメント」「JOB@IT」「@ITハイブックス」「@IT MONOist」「ITmedia」「誠」「BARKS」は、アイティメディア株式会社の登録商標です。

当サイトに関するお問い合わせは「[@ITへのお問い合わせ](#)」をご覧ください。

● 2008 年開催イベント・セミナー報告

開催日	タイトル
2008/01/23	NGN 時代のサービス基盤セミナー ～サービスプロバイダが求める最適化されたサービス基盤構築のポイント～
http://www.nec.co.jp/WebOTX/event/20080123_f5.html	
2008/01/30	ITpro Expo 2008
http://www.nec.co.jp/WebOTX/event/20080130itpro-expo.html	
2008/02/22	Software WORKS Summit 2008
http://www.nec.co.jp/WebOTX/event/20080222summit.html	
2008/07/28	企業内の情報を巧く活用できる秘訣教えます！ ～高速サーチエンジン×インフラエンジン×構築ノウハウが情報活用力を最大化～
http://www.nec.co.jp/WebOTX/event/20080728sei.html	
2008/09/05	Software WORKS セミナー 関西 2008(*)
http://www.nec.co.jp/semi/swsk0905/	
2008/09/10	NEC Middleware Day 2008(*)
http://www.sbbt.jp/article/9604/	
2008/10/03	WebOTX WORKS DAY 2008(*)
http://www.sbbt.jp/article/9794/	

(次ページ以降にレポート内容を掲載しています。ただし(*)は本ページに示した URL のみです)

**「NGN時代のサービス基盤セミナー ～サービスプロバイダが求める最適化されたサービス基盤構築のポイント～」出展報告
(2008年3月26日時点)**

2008年1月23日(水)に、F5ネットワークスジャパン株式会社で「NGN時代のサービス基盤セミナー ～サービスプロバイダが求める最適化されたサービス基盤構築のポイント～」と題した、F5ネットワークスジャパン株式会社様との共同セミナーが開催されました。本セミナーは「WebOTX WORKS」に参加いただいたパートナー企業様と、第10回目のプロモーション活動となっております。

1. 集客状況について

本セミナーのテーマは、サービスプロバイダにとって新たなビジネスチャンスとなる「**NGNを活用したサービス基盤の構築**」。NGN時代では、これまで個別に提供されてきたアプリケーションとネットワークの両基盤が密に連携することが求められます。本セミナーは、NECとF5とのアライアンスによって実現した、高い拡張性と信頼性を備えたNGN時代のサービス基盤をご紹介します企画です。あいにくの雪の中での開催となりましたが、多くの方にご参加いただくことができました。



セミナー開始時の様子

2. セミナー内容

本セミナーは、「NGN時代のアプリケーション開発を支援するF5の最新技術」「NGN時代に求められるSIPアプリケーションのサービス実行基盤」「NECとF5が実現するアプリケーションの可用性を高める方法 ～WebOTXとBIG-IPで実現する自律型負荷分散制御のご紹介～」の4部構成で開催いたしました。

2.1 NGN時代のアプリケーション開発を支援するF5の最新技術

NGN時代に求められるサービス基盤とはどのようなものでしょうか。まずは、ネットワーク基盤の視点から、『NGN時代のアプリケーション開発を支援するF5の最新技術』とのタイトルで、F5ネットワークスジャパン株式会社 武堂 貴宏様よりご紹介いただきました。



F5ネットワークスジャパン株式会社 武堂 貴宏氏

ネットワーク環境や接続デバイスが多様化するとともに、映像や音声といったマルチメディア活用アプリケーションが出現するなど、より複雑化しているアプリケーション配信環境。サービスプロバイダにおいて、そのような環境でアプリケーションを最適に配信することが課題となります。講演は、このような課題を解説しながら、そのソリューションとなるマルチメディア・トラフィック管理(IMS)に対応した最新のBIG-IP Local Traffic Manager(LTM)のご紹介からスタートしました。

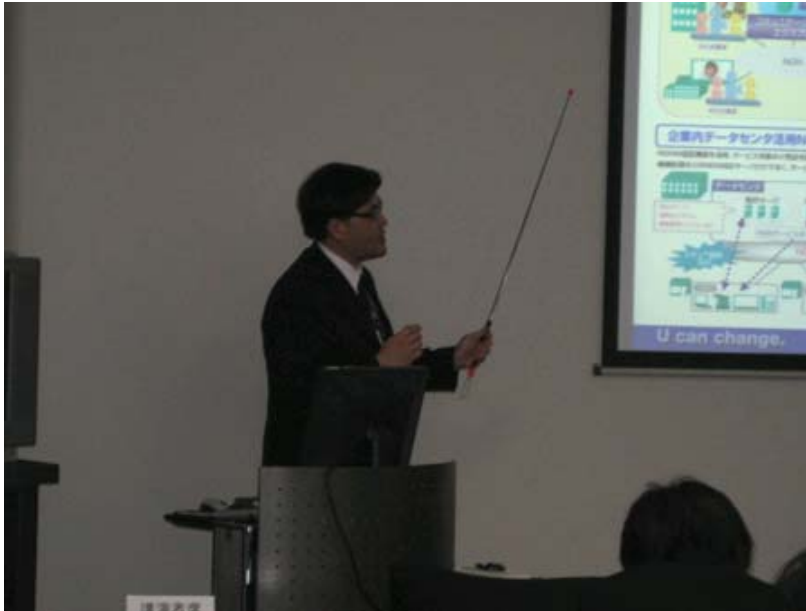
「BIG-IPは世界中で多くのサービスプロバイダ様にご採用いただいております、我々はサービスプロバイダのお客様の課題を十分に理解しています」と武堂氏の言葉どおり、マルチメディアのアプリケーション配信環境において、BIG-IP LTMがどのように活用できるかを、これまでと最新のアプリケーション配信環境とを比較しながらわかりやすくご説明いただきました。

さらにNGNで新たに利用されるSIPによる通信でも、BIG-IP LTMは変わらずアプリケーションを配信できることを強調し、BIG-IP LTMのアプリケーション配信ルールを記述するiRulesの効果を、事例を交えてご紹介。「**アプリケーション側で発生した問題の解決を、アプリケーション側でなくネットワーク側から支援します**」との説明には多くの方が興味深そうに頷かれていました。

IMSに対応し、NGN時代においても、これまでと変わらない強力なネットワーク基盤を提供するBIG-IP LTM。既にNGN Readyであることを強く印象付けられたセッションでした。

2.2 NGN時代に求められるSIPアプリケーションのサービス実行基盤

武堂様のセッションではNGN Readyなネットワーク基盤をご紹介頂きましたが、次はアプリケーション基盤の視点から、『NGN時代に求められるSIPアプリケーションのサービス実行基盤』とのタイトルで、NECシステムテクノロジー株式会社 中越 成行よりご紹介いたしました。



NECシステムテクノロジー株式会社 中越 成行

NGN時代のサービス基盤として、対応が必要不可欠となるSIP。WebOTXでは、このSIPに対応したアプリケーションサーバとして、WebOTX SIP Application Server(SIP AS)をご提供しています。まずはWebOTX SIP ASのメリットとともに、特長である「SIPサーバの仮想化」と「シェアNo.1 SIPサーバとの親和性」についてご紹介いたしました。

F5とNECとでは、今回発表した協業にあたり、両社の製品間で様々な連携検証を行ってきました。その一つが、NGN時代に新しく利用されるプロトコルであるSIPによる通信の検証です。

NGNにおいては、不特定多数のユーザが、映像・音声といった大容量のデータにアクセスするため、ネットワーク上では大量のSIP通信が発生します。そこで重要となるのが、情報量の増加においても柔軟に対応できる拡張性(スケーラビリティ)。それをF5様のBIG-IP LTMとの連携によって実現できたことを、検証結果を交えながらご説明しました。

SIPによる通信の制御は、武堂様のセッションでも説明されたiRulesを利用して行われますが、このSIP通信を行う際のiRules記述に関するノウハウが得られたことが最大のポイントです。このノウハウを含め、検証の結果は[こちら](#)でご紹介していますので是非ご活用ください。

最後は「NGN時代のサービス基盤は、WebOTXだけ、BIG-IPだけではなく、両方が連携することで初めて実現できます。今後も両製品の連携を進めていきますのでご期待ください」と宣言し、両基盤が連携することの重要性を強調して、セッションを終了しました。

2.3 NECとF5が実現するアプリケーションの可用性を高める方法 ～WebOTXとBIG-IPで実現する自律型負荷分散制御のご紹介～

両社で行ったもう一つの検証は、システムの可用性に関する検証です。その結果、実現した高可用なサービス基盤について、『NECとF5が実現するアプリケーションの可用性を高める方法 ～WebOTXとBIG-IPで実現する自律型負荷分散制御のご紹介～』とのタイトルで、九州日本電気ソフトウェア株式会社 原 直孝よりご紹介いたしました。



九州日本電気ソフトウェア株式会社 原 直孝

WebOTX Application Server(AS)は、高信頼性について大変高い評価を頂いています。まずは、その高信頼性、その中でも負荷耐性にスポットをあて、それを実現するWebOTX ASの自律的負荷分散機能についてご紹介。WebOTX ASでは、変動する負荷の状況を学習し、その状況に応じてAPサーバが自動的にサーバ内のリソースを最適化することをご説明しました。

しかし、サーバ内でリソースを最適化してもサーバ1台の処理能力を超えるような負荷が発生したらどうすれば…そこで、BIG-IP LTMと連携します。WebOTX ASの機能である「Working Domain Coordinator(WDC)」により、負荷状況に応じて複数サーバ間においてもリソースの最適化が行えること、それに伴い、BIG-IP LTMの負荷分散の設定変更もWDCから行えることをご説明しました。実際にサービスを起動しているAPサーバが負荷状況を判断するため、よりきめ細かな負荷制御を行うことが可能になります。

今年1月にリリースしたWebOTX ASの最新版では、WebOTXの設定を行う統合運用管理ツールにBIG-IP LTM専用の設定画面を標準機能として用意しており、運用性も向上しています。

高い可用性を実現するとともに、運用管理者の負荷も軽減することが可能となる今回の連携。BIG-IP LTMとWebOTXとの連携による高可用なサービス基盤を是非ご活用ください。

2.4 サービスプロバイダの収益向上に貢献 ～F5のアプリケーション・デリバリー・ネットワーキングのご紹介～

最後のセッションでは、サービスプロバイダにおけるF5様のソリューションの優位性を、『サービスプロバイダの収益向上に貢献 ～F5のアプリケーション・デリバリー・ネットワーキングのご紹介～』とのタイトルで、F5ネットワークスジャパン株式会社 吉本 努様よりご紹介いただきました。



F5ネットワークスジャパン株式会社 吉本 努氏

まずはこれまでのセッションで何度もその重要性を強調していたSIP通信制御におけるBIG-IPの導入効果を解説。SIP通信において「スケーラビリティ向上」「相互接続性の確保」「高いSLAを維持」といった効果を実現する仕組みを詳しく解説。さらに、その適用事例も併せてご紹介頂き、その効果がより具体的に理解できました。

また、F5はBIG-IP LTMの他にもサービスプロバイダに向けて様々なソリューションを提供されています。ここでは、ダイナミックコンテンツの表示を高速化するBIG-IP WebAcceleratorをご紹介頂きました。モバイル・キャリア、国際キャリアといった両キャリア・ネットワークにおけるユーザの体感速度の低さといった課題をあげながら、それがWebAcceleratorによってどのように解決されるのかを分かりやすくご説明いただきました。

最後は「今後もNEC様とソリューションの数を増やしながらビジネスの輪を広げていきたいと思いますので今後ともよろしくお願いします」と締めくくり、4セッションにもわたるセミナーを終了しました。

3. 総論

サービスプロバイダ向けにネットワーク基盤とアプリケーション基盤の両方からNGN時代のサービス基盤を解説した本セミナー。4セッションというボリュームの多い内容となりましたが、アンケートからも多くの方から満足したとの評価を頂くことができました。吉本様のお言葉のように、今後もF5様とNECとが連携した様々なソリューションを実現したいと考えておりますのでぜひご期待ください。

4. 更新履歴

2008/03/26 初 版

資料請求・お問い合わせ

➡ 資料請求・お問い合わせ

[ページの先頭へ戻る](#)

「ITpro Expo 2008」出展報告 (2008年3月26日時点)

2008年1月30日～2月1日まで、日経BP社主催の展示会「IT pro Expo 2008」が開催されました。

2007年12月20日にNGN時代のサービス基盤分野でNECと協業を開始したF5ネットワークス。
ITpro Expo 2008でのテーマは「**Webアプリケーションのパフォーマンスを最大限に高める**」。

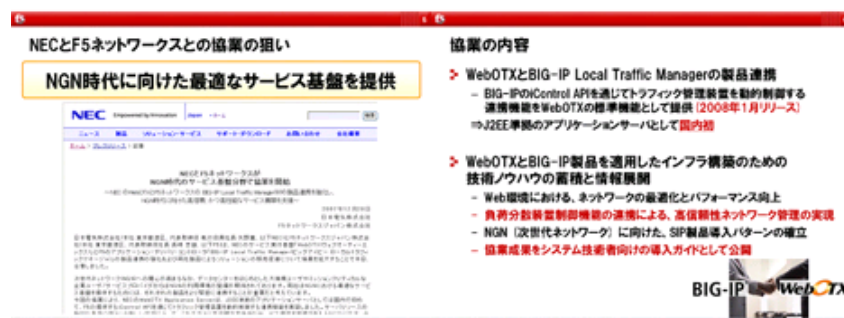


F5ネットワークスのブース

F5ネットワークスのブースでは、新たにラインナップされたファイルストレージ仮想化製品「[Acopia ARX](#)」をはじめとした製品展示に加え、セミナーを通してお客様にさまざまなソリューションが紹介されていました。

NGN時代に向けた最適なサービス基盤を提供

NECは、F5ネットワークスとの協業に基づき、F5 BIG-IP Local Traffic Managerとの連携機能を標準搭載したNEC WebOTX Application Serverを2008年1月に製品リリース。この新機能は、システムの動作状況を反映させたきめ細かな負荷制御を可能とするものであり、Webシステムの可用性を向上させるものとなっています。



F5ネットワークスとNECとの協業の狙い(クリックで拡大)

NEC WebOTXとBIG-IPで実現する高信頼ソリューション

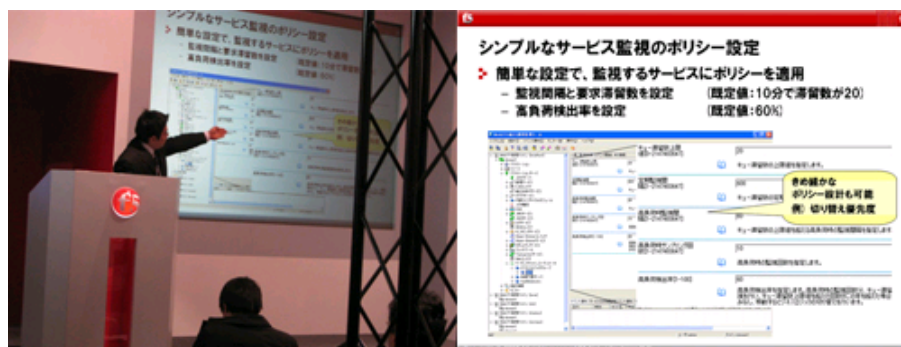
ITpro Expo 2008の最終日である2月1日。F5ブースにおいて、NEC 吉原より「シンプル設定でWebシステムの可用性を向上」というタイトルで、今回の機能連携によって可能となった高信頼ソリューションをご紹介いたしました。



NEC 吉原による講演

講演では、ソフトウェア障害によるシステム停止や、負荷集中によるレスポンス悪化に対して、WebOTX Applicatino Serverがどのように解決しているのかを解説。今回は負荷集中に対する高信頼機能にフォーカスを当て、「自律的なリソースの最適化」についてF5 BIG-IP Local Traffic Managerとの連携機能を中心に説明いたしました。

「リソースの最適化」で重要なのはサービスの高負荷状態をより適切に検出すること。高負荷状態の要因は、高CPU使用率、ファイルI/O頻発、データベースサーバのスローダウンなど様々。



WebOTX ASがサービスの監視を実施(クリックで拡大)


今回のソリューションの大きなポイントは、このサービスの監視をトラフィック管理装置ではなく、実際にサービスを稼働させているアプリケーションサーバが担うという点。WebOTX Application Serverが、高負荷状態を適切に検出し、BIG-IP Local Traffic Managerとサービスを制御しながらリソース分散を行います。

リソース最適化に関する設定項目は、WebOTX Application Serverが提供する統合運用管理ツールで容易に設定できるようになっています。負荷の揺らぎも考慮した監視機能に加え、WebOTXの最新バージョンではBIG-IP Local Traffic Manager専用の設定画面を標準機能として提供。具体的な設定画面を紹介しながら、運用設計者の負担も軽減できるようになっている点について解説いたしました。「IT基盤のソフトウェアから、ネットワーク基盤の負荷分散装置を制御」「専用の設定画面を標準提供」との紹介部分では、多くの方が熱心に設定画面を見られていました。

f5 16

WebOTX・BIG-IP連携検証成果


NECとF5ネットワークスが協力して実施したBIG-IPとWebOTXの連携検証の成果をドキュメントとして公開中



コンテンツ

- Java環境におけるスケーラビリティ × フォルトトレランスの実現
- Working Domain Coordinatorと BIG-IP連携の説明動画ファイル
- WebOTX SIP Application Server
BIG-IP Local Traffic Manager
連携システム構築ガイド

URL
http://www.nec.co.jp/WebOTX/works/partner_f5_topic.html



Copyright © 2007 All rights reserved F5 Networks Japan K.K.

WebOTX・BIG-IP連携検証成果(クリックで拡大)

「NECとF5ネットワークスでは、製品連携の過程でさまざまな技術検証を行っており、その検証結果をホワイトペーパーとして広く公開しています」と、NEC吉原よりリソース最適化に加えて、NGNIにおいて注目を浴びているSIPに関する技術レポートにも触れてセッションを終了いたしました。

NECとF5ネットワークスでは、今後も「WebOTX + BIG-IP」のベストプラクティスを提案モデルとして展開してまいります。ご期待下さい。

更新履歴

2008/03/26 初 版

資料請求・お問い合わせ

資料請求・お問い合わせ

[ページの先頭へ戻る](#)



「Software WORKS Summit 2008」出展報告
(2008年3月19日時点)



2005年10月に発表いたしました、NEC統合ソフトウェアパートナー制度「[Partner Program for Software](#)」を発表してから3年。

2008年2月22日、ウェスティンホテル東京において、「[Software WORKS Summit 2008](#)」を開催いたしました。本イベントでは、NECの自社製ミドルウェアにおける NGN対応などの将来展望と、連携して頂いております協業パートナー企業様との協業成果を、エンドユーザ様及び業界関係者に広く発表いたしました。

当日は晴天に見舞われ、400名におよぶ多くの方にご参加いただきました。



東京大学 江崎教授による基調講演



NEC執行役員 岡田による講演



本イベントでのWebOTX WORKSは、NGNトラックのWORKS分科会セッション1において、F5ネットワークスジャパン株式会社様とNECのタッグによるセッションを講演させていただきました。

NGN時代のサービス基盤ではネットワーク基盤とアプリケーション基盤の融合がキーワードとなっています。ネットワーク基盤という視点でとらえたサービス基盤を「F5ネットワークスジャパン株式会社 武堂 貴宏様」より、アプリケーション基盤という視点で捉えたサービス基盤を「NEC 毛利 豊」よりご紹介いたしました。

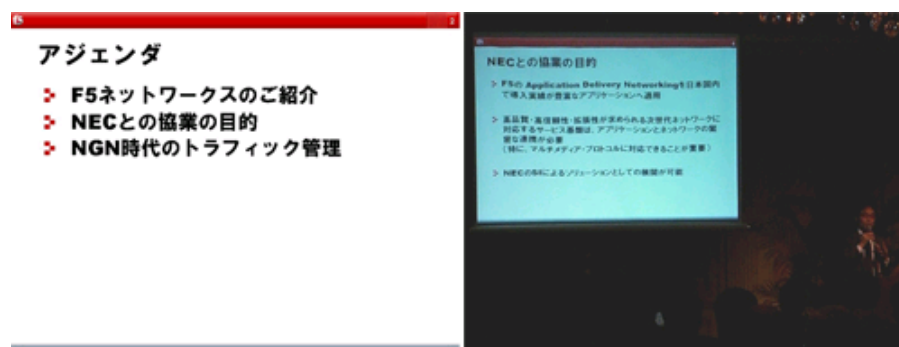


F5ネットワークスジャパン株式会社 武堂 貴宏様による講演

F5ネットワークスジャパン株式会社 武堂 貴宏様からは、「NECとF5ネットワークスを実現するNGN時代のサービス基盤とは」というタイトルで、トラフィック管理装置 BIG-IP Local Traffic Manager を中心に、「安全」「高速」「安定」をキーワードにネットワーク基盤の視点から見た「アプリケーション配信」についてご講演いただきました。

講演ではNGN時代に向けて重要となるSIP技術について、BIG-IP Local Traffic Managerがネットワーク基盤として何をしてくれるのかをご説明していただきました。「NGN時代にむけて、何を意識しておかないといけないのか？」という解説に多くの方が、スクリーンを熱心に見られていたのが印象的でした。

そして「NECとの協業により、次世代ネットワークに対応したサービス基盤を提供し、今後も日本のお客様のニーズに応える両社製品の連携を強化していきます」との宣言の後、NECセッションへバトンタッチとなりました。



F5ネットワークスとNECとの協業の目的(クリックで拡大)

F5ネットワークス株式会社 武堂 貴宏様からのバトンを受けて「ネットワーク基盤の視点を、今度はアプリケーション基盤の視点で捉えてみましょう」と、NEC 毛利から「NGN時代に向けた最適なサービス基盤を提供」というタイトルで講演をスタートしました。

企業が提供するサービス(アプリケーション)の基盤を提供するのがNECのサービス実行基盤 WebOTX。本セッションではWebOTXの中核であるWebOTX Application Serverを、特に信頼性について「学習」「判断」「維持」というキーワードで解説いたしました。

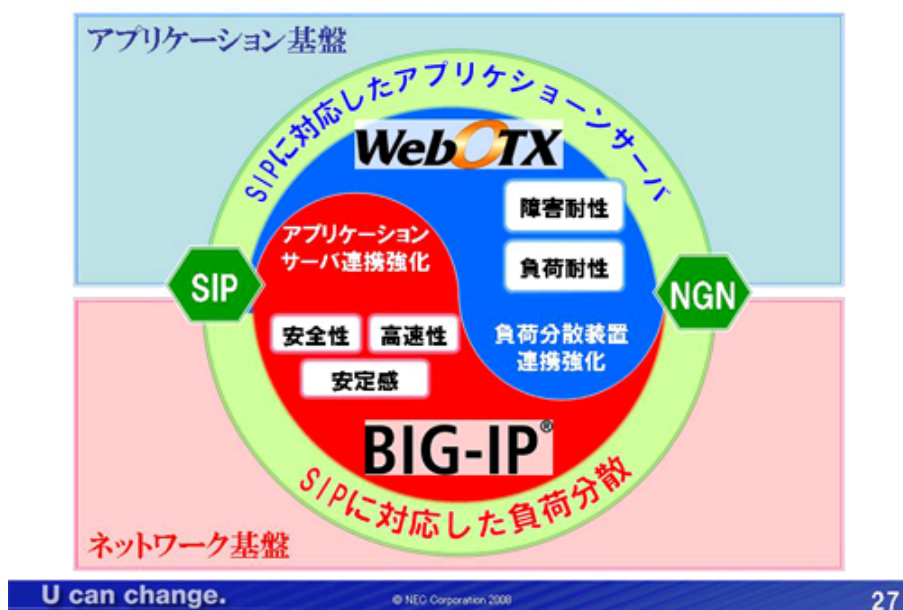
その上で、F5ネットワークス株式会社様との協業によって2008年1月に製品化した「動的負荷制御」機能について、従来と比較した新たな効果についてご説明しました。



NEC 毛利による講演(クリックで拡大)

最後は、NEC毛利より「アプリケーション基盤であるWebOTXとネットワーク基盤であるBIG-IPは共通のゴールとしてNGN時代に向けた最適なサービス基盤の提供を目指し、新たなSIPという技術に対してそれぞれの基盤で製品強化および技術検証をすでに完了しています。私どもは双方の基盤の相互連携によって生み出された最適なサービス基盤を提供できており、既にNECとF5はNGN Readyです」と宣言し、会場からの拍手の中、セッションを終了いたしました。

NGN時代に向けた最適なサービス基盤を提供 WebOTX



NGN時代に向けた最適なサービス基盤を提供

本セッションについて、お客様から「WebOTX、BIG-IPの両方の機能を理解できた」「協業の重要さを感じました」「連携内容が良くわかりました」という評価をいただいております。NGN時代に向けた最適なサービス基盤なら、NECとF5ネットワークスというメッセージを、きちんと伝えられたと感じました。



また、RFID Manager WORKSは、PLATFORMトラックのWORKS分科会セッション2において、「EPCglobalネットワークとWebOTX RFID Managerの最新事例ご紹介」というタイトルで、NEC 小島 洋介が講演いたしました。

モノの位置情報や移動履歴など、ユビキタス社会において今まで見えなかったものを可視化するRFID。本セッションでは、RFIDをシステムに導入する際に直面する様々な課題をあげたうえで、それをWebOTX RFID Managerがどのように解決するのかを解説。工程管理、資産管理、図書館での貸出・予約管理といった実際に導入いただいている様々な事例を交えながら、WebOTX RFID Managerを導入した際の効果についてご説明しました。

ユビキタス社会におけるRFIDの役割

今まで見えなかったものを可視化すること
いまどこに・なにが・どれだけ・どのようにあるのか、ないのか

ものの位置	保管状態	現在の位置
移動履歴	流通履歴	周囲の状況

**可視化された情報を基に
変化に迅速に対応でき、安心・安全な
ユビキタス社会を実現**

U can change.

NEC 小島による講演(クリックで拡大)

さらにRFIDの国際標準である「EPCglobalによる国際物流実証実験へ参加した事例」もご紹介。「WebOTX RFID Managerは、企業内に閉じたシステムだけでなく、企業間連携やグローバルなシステムなど、将来的なシステム拡張へも対応できます。ぜひご活用下さい。」と宣言し、小島はセッションを締めくくりました。



RFID Manager WORKSは、2008年4月よりWebOTX WORKSと一体化し、活動してまいります。
WebOTX WORKSはパートナー様とのお互いのビジネスを拡げていくための入り口です。
WebOTX WORKSによって、加盟いただいたパートナー様とNECお互いのビジネスが広がって
いけるよう、今後とも邁進してまいります。今後のWebOTXにご期待下さい。

更新履歴

2008/03/19 第2版(RFID Manager WORKSセッションレポートを追記)
2008/02/29 初 版

資料請求・お問い合わせ

 資料請求・お問い合わせ

[ページの先頭へ戻る](#)

Copyright © NEC Corporation 1994-2009. All rights reserved.

WebOTX WORKS セミナーレポート:「企業内の情報を巧く活用できる秘訣教えます! ~高速
サーチエンジン×インフラエンジン×構築ノウハウが情報活用力を最大化~」
(2008年9月9日時点)

2008年7月28日(月)に、NEC ブロードバンドソリューションセンター(品川)で、WebOTX
WORKSパートナーである住友電気情報システム様、NECソフトとの共同セミナーを開催し
ました。

セミナー概要

帳票や会議資料など、企業内に存在する膨大な量の情報を必要な時に探し出して業務に活用
したい。そのような目的で注目を浴びているのがエンタープライズサーチ(企業内検索システム)
です。

本セミナーでは、住友電気情報システム様の全文検索エンジン「[QuickSolution](#)」のご紹介を通
じて、エンタープライズサーチで企業内の情報を**巧く**活用する秘訣を解説。さらに企業内検索シ
ステムの導入構築事例、そのシステムを支える最適なインフラエンジンまでをまとめてご紹介し
ました。

講演テーマ

1. 「エンタープライズサーチで出来るナレッジ活用
～企業内の“検索”は今、どこまで進化したのか?～」
2. 「エンタープライズサーチ先進事例のご紹介
～大規模構築事例に見るシステム構築のポイントとは?～」
3. 「いまエンタープライズシステムに求められているものとは?
～最適なインフラエンジンのご紹介～」

セッション1

重要なのは漏れなく検索できること

エンタープライズサーチで出来るナレッジ活用

～企業内の“検索”は今、どこまで進化したのか?～

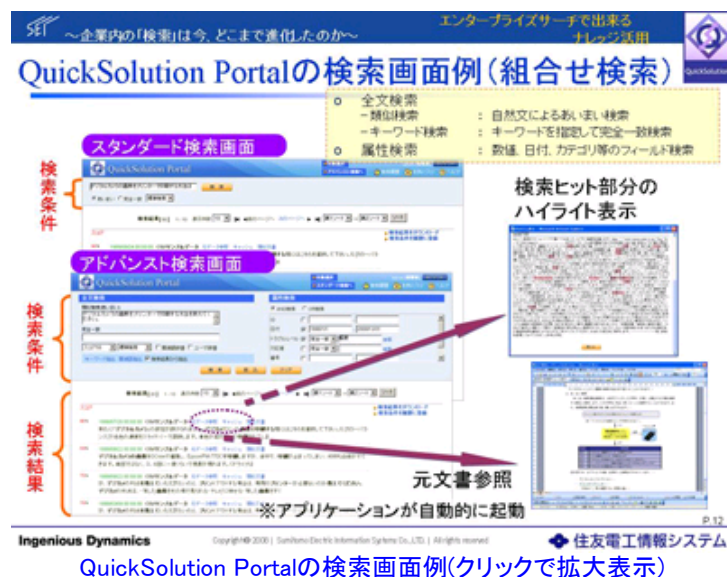
最初のセッションでは、エンタープライズサーチの概要や機能、実際にどのように活用されてい
るかなどを、『エンタープライズサーチで出来るナレッジ活用 ～企業内の“検索”は今、どこまで
進化したのか?～』とのタイトルで、住友電気情報システム株式会社 伊藤 彰康様よりご紹介
いただきました。



住友電気情報システム株式会社 伊藤 彰康様

まずは私達が普段活用しているインターネットの検索とエンタープライズサーチとは何が違うのかを、それぞれの特徴を比較しながら分かりやすくご説明。その上で伊藤様が強調されたのは「**エンタープライズサーチでは漏れなく検索できることが重要**」という点でした。

目的の文書が存在するか分からないインターネットでの検索に対して、エンタープライズサーチでは目的の文書が存在していることを前提に検索するため、検索漏れが起きることは致命的です。そこで住友電気情報システム様の「[QuickSolution](#)」では、検索漏れを防ぐためにどのように検索を行うのか、そしてその結果をどのようにして効率的に絞り込むかを、デモンストレーションを交えてご紹介いただきました。



さらに、エンタープライズサーチが実際に企業内ではどのように活用されているのかを様々な事例を用いてご紹介。エンタープライズサーチに対するお客様のニーズを十分理解されているからこそ、このように様々な業界で多くの企業に導入されているのだと強く印象付けられ、本セッションを終了しました。

[ページの先頭へ戻る](#)

セッション2

エンタープライズサーチ導入後に気づく課題とは？

エンタープライズサーチ先進事例のご紹介

～大規模構築事例に見るシステム構築のポイントとは？～

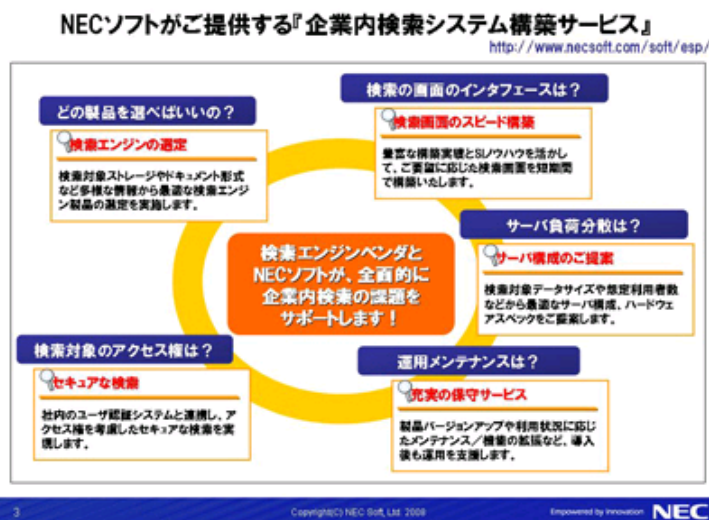
前セッションでご紹介頂いたエンタープライズサーチ。それをシステムに導入する場合、どのような課題があるのでしょうか。そのシステム導入・構築におけるポイントを『エンタープライズサーチ先進事例のご紹介 ～大規模構築事例に見るシステム構築のポイントとは？～』とのタイトルで、NECソフト 後藤 和博より紹介いたしました。



NECソフト 後藤 和博

まずは、エンタープライズサーチを導入されているお客様へのアンケート結果をご紹介します。その結果によると、エンタープライズサーチの必要性を感じられ、自社に導入されているお客様はやはり多いようです。しかしその一方で後藤が指摘したのは、**エンタープライズサーチ導入後に、何らかの課題に気づくお客様が多い**という点でした

NECソフトでは、検索画面やセキュリティ対策、運用メンテナンスといった、エンタープライズサーチ導入における様々な課題を解決し、お客様の最適なエンタープライズサーチシステムを構築する「[企業内検索システム構築サービス](#)」をご提供しています。



NECソフトがご提供する「企業内検索システム構築サービス」(クリックで拡大表示)

本セッションでは、「検索精度の向上」「セキュリティと情報共有の両立」「レガシー資産の活用」におけるソリューション事例をご紹介します。その豊富な構築実績によって得られたノウハウをもとに、それらの課題をどのように解決したのかをご説明いたしました。

さらに検索で探し出した文書に対する情報漏えい対策や文書を保存するためのストレージなど、検索に関連したソリューションまでをご紹介します。特にセキュリティとの関連ソリューションに関しては、セッション後に質問も頂戴するなど、関心の高さが伺えました。

[ページの先頭へ戻る](#)

変化に強い柔軟なシステムの実現を支援

いまエンタープライズシステムに求められているものとは？

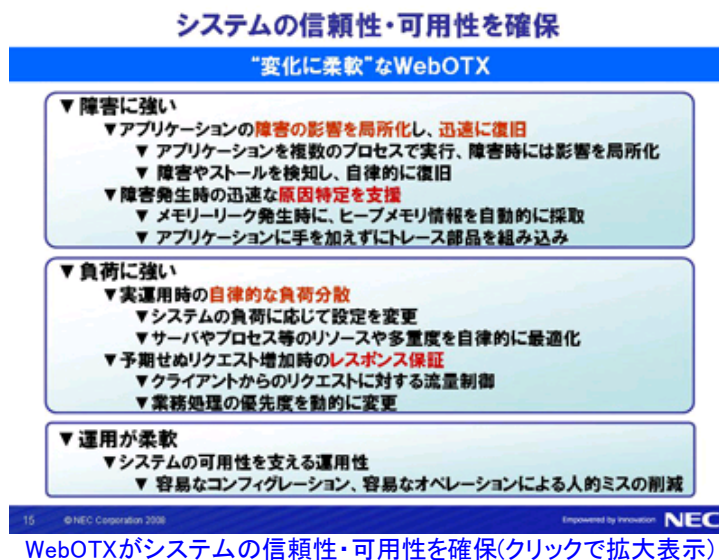
～最適なインフラエンジンのご紹介～

これまでのセッションではサーチエンジン、そしてそれを導入するためのノウハウをご紹介しました。最後は、そのシステムの基盤となるインフラエンジン選択において重視すべきポイントを、『いまエンタープライズシステムに求められているものとは？～最適なインフラエンジンのご紹介～』とのタイトルで、NEC 寺坂 智之よりご紹介いたしました。



NEC 寺坂 智之

「エンタープライズシステムに求められるもの。それは、様々な『変化に強い』ことです」と講演をスタートした寺坂。運用、インフラ、アプリケーションの3つの側面からエンタープライズシステムにおける変化をそれぞれご説明。そのうえで、変化に強いシステムの実現には、変化に柔軟であることが必要であるとし、NECのインフラエンジン「[WebOTX Application Server](#)」をご紹介しました。



WebOTXがシステムの信頼性・可用性を確保(クリックで拡大表示)

WebOTXが変化に柔軟であることをご紹介する上で強調したポイントは「障害に強いこと」「負荷に強いこと」「運用が柔軟なこと」の3点。寺坂は、WebOTXがそれらを実現する様々な機能を揃えているだけでなく、お客様にきめ細かいサポートをご提供できる体制が整っている点までをご説明し、安心してご利用いただけるインフラエンジンであることを強調しました。

最後は7月に新たにリリースしたばかりのWebOTX V8を初公開。国内ベンダ初のJava EE 5対応、NGNやSOA分野に対する強化といったポイントをご紹介して本セッションを終了。「変化に強い柔軟なシステムの実現に、ぜひWebOTXをご活用ください」と寺坂は締めくくりました。

[ページの先頭へ戻る](#)

まとめ

企業内検索エンジンと企業インフラエンジン、そしてシステム構築ノウハウまでを解説し、企業内の情報を**巧く**活用するポイントをご紹介した本セミナー。大変暑い中のセミナー開催となりましたが、開始前から写真のように席は満席に。エンタープライズサーチに対する注目の高さが伺えました。



セミナーの様子

アンケートでは「参考になった」とのコメントを大変多く頂戴し、セッション後の質疑応答でも、「Excel内のテキストボックスやPDF内の画像データなどもあるが、どこまで検索対象になるの?」「セキュリティ対策を導入した場合、ファイルの暗号鍵はどのようにやりとりするの?」とより具体的な質問を頂くなど、エンタープライズサーチがまさに今、お客様に必要とされているシステムであることを実感できたセミナーでした。

本セミナーの講演資料、製品カタログ類は、下記の「資料請求・お問合せ」ボタンよりご請求いただけます。資料をご希望の方は、ぜひお気軽にお問合せ下さい。

[ページの先頭へ戻る](#)

セミナー資料

「企業内の情報を巧く活用できる秘訣教えます」講演資料冊子
住友電気情報システム「QuickSolution」カタログセット
NECソフト「企業内検索システム構築サービス」カタログ
NEC「サービス実行基盤WebOTX」カタログ & 事例セット



講演資料セット。お気軽にお問合せ下さい！

[ページの先頭へ戻る](#)

更新履歴

2008/09/09 第2版(講演資料について一部掲載など)
2008/08/11 初 版

資料請求・お問い合わせ

 資料請求・お問い合わせ

[ページの先頭へ戻る](#)